

さわらびエコナビ通信

第17号・発行
平成26年3月14日
早良区生活環境課
TEL:833-4341
協力
早良区環境活動
連絡会議

森へ行くこう

森林と触れ合う体験学習会

原西公民館

原西公民館（中島裕子館長）は、昨年10月19日、NPO法人「里まちサイクルコミュニティ（上野徳子理事長）」の協力により、曲淵の里山で「森林と触れ合う体験学習会」を開きました。

原西小学校の子どもたち20人を含む30人が参加。上野理事長から「里山に孟宗竹が入り込み、旺盛な繁殖力により実がなる樹木が減少するなど、生態系に影響が出ている」「竹は地表近くで横方向に根を広げるため、竹林地は地盤が弱い」「筍を食べるために、猪が山から麓に下りて来ている」など、森林の現状の話をお聞きしました。

話を聞いた後に、NPO法人会員による20mほどの高さがある



クヌギの木の苗床作りを体験

孟宗竹の伐採現場の見学と、クヌギの木を育てるための苗床作りを体験。子どもたちからは「ドングリにかぶせる腐葉土をもっと増やそう」「早く芽が出るといいね」など、にぎやかな声が上がっていました。



竹を使った花立て作りにチャレンジ

伐採した孟宗竹を器具に使ったパンの蒸し焼きにもチャレンジ。パン生地作りでは「ここにゴマを付けて、中にレーズンを入れよう」「レーズンを上に乗つけて顔をつくらう」など、それぞれ工夫をこらしていました。

参加者は自分で作ったパンでの昼食後、竹で作った花立てに近くで咲いている野の花を飾って、お互いに見せ合ったり、竹林の傍にある小さな沢でカニなどの生き物を探したり、自然との触れ合いを楽しみました。

自然環境を学ぶ

野河内溪谷の自然環境の

保全・保護活動

脊振の自然を愛する会

「脊振の自然を愛する会」及び「早良みなみ塾」自然環境分科会の主催による「野河内溪谷自然観察会」が、昨年11月30日に曲淵・飯場地区で開かれました。

午前中は内野公民館曲淵分館の講堂で、同会の池田友行代表から野河内溪谷の保全・保護活動の報告と、「野河内溪谷の自然」をテーマに自然観察指導員の大家俊樹さんと森林インストラクターの西岡幸治さんの講話がありました。

大塚さんからは「今日は曲淵の朝もやの中でコゲラなど14種類の鳥が、鳴き声や目視で確認できた」「鳥のさえずりを人の言葉に置き換える『聞きなし』という慣習が昔からある」「羽根や嘴の形の特徴などから鳥の種類を見分けることができる」など、鳥の生態の話がありました。

西岡さんからは「類似木でも

葉の形や樹皮の模様で種類が判別できる」「日の当たり具合で紅葉の色合いが異なる」「自然木などを活かして、野河内溪谷の入口部を整備している」など、日頃の活動の話がありました。



野河内溪谷の保全・保護活動の報告

参加者は地元で捕獲した猪を使った鍋で暖まり、午後に野河内溪谷に入り「彩のある森づくり」をコンセプトとした森づくりについて説明を受けた後、竹を伐採した丘陵地に桜とモミジを植樹しました。

※当活動は、「早良区工」発する事業」の支援を受けています。

野鳥観察会

身近な野鳥の暮らしを学ぼう！
曲淵小学校

曲淵小学校は脊振山系の山麓に位置し、曲淵ダムや野河内溪谷に近接するなど、自然に恵まれた場所にあります。同校では、この自然環境を活かして、バードウォッチングや笛掘り、野菜作りなど、特色ある教育が行われています。

時折薄日が差す1月15日、曲淵小学校の子どもたち18名が参加して、曲淵ダムでバードウォッチングが行われました。観察の前に、教室で自然観察指導員の大塚俊樹さんから、「冬になると、シベリアなどの寒い所から、より暖かい所に鳥が渡って

来る」「曲淵ダムの周辺は、餌となる木の実などが多く、鳥にとって暮らしやすい」「オスの方が羽の色が目立つ種類が多い」など、鳥の生活や生態の説明がありました。

説明を聞いた後、双眼鏡を手に曲淵ダムに移動。ダム貯水池に集まっている「オシドリ」や「マガモ」などを観察しました。小さな鳥たちは、タカなどの大きな鳥の攻撃から身を守るため、色々な種類が一緒の群れになっていました。



曲淵ダムでのバードウォッチング

次に、静かな場所に移り、大塚さんの合図で目をつぶって耳を澄まします。すると、風の音や「チーチュルチーチュル チー チー チュルチー」というメジロの鳴き声など、色々な自然の音が聞こえました。



耳を澄まして自然の音を聞こう

参加した子どもたちからは、「小鳥をいっぱい見つけた。鳥の名前をいっぱい覚えて、楽しかった」「耳を澄ますと、鳥のきれいな鳴き声や面白い鳴き声が聞こえた。また学びたい」などと、感想が述べられました。